



子どものころ、アメフトの試合を見に行った私（中央）

皆 さん、こんにちは。橋立中学校ALTのピーターです。

私が勤務している中学校では、野球はとても人気があります。野球は、日本で最も人気のあるスポーツであると言っても過言ではなく、多くの児童・生徒が学校の休み時間や放課後に野球を楽しむ姿が見られます。

そして、子どもだけでなく大人もテレビで野球観戦を楽しんでいます。また、他のスポーツと比べて、テレビで生中継される回数がとても多いです。私の国、アメリカでは、野球の人気は徐々に低下しています。今、アメリカで野球は3番目に人気のあるスポーツだと言われている、今後、サッカーが野球を追い抜く可能性もあります。

アメリカで圧倒的に人気のあるスポーツは、アメリカンフットボール（以下、アメフト）です。アメリカ人が冗談で「アメリカが59回優勝し、世界の他の国は一度も優勝していない」と言うほどです。アメフトは、アメリカとカナダ以外ではあまりプレーされていません。アメフトは難しいスポーツで、ワクワクして楽しいですが、けが

につながることも多いです。長年にわたって選手を守るためのルールが導入されてきましたが、いまだにけがが頻繁に起こっています。私も友人もアメフト観戦が大好きですが、試合の多くは日本時間の月曜日午前2時から9時ごろに行われます。日本にいる私は、試合の日には午前4時ごろに起きて観戦します。そのため、9月から翌年1月上旬までのシーズン中、月曜日はとても眠くなります。では、アメフトのシーズンにワクワクする日本人はどのくらいいるのでしょうか？ 私の印象でいうと、答えは「多くない」です。しかし、これまで意外にもアメフトに興味を持っていた日本人は多く出会いました。私はアメリカ以外の地域でアメフトはあまり普及していないと思っています。アメリカは、けがなどのリスクを負うことをいとわない方が多いですが、日本の方はリスクを避けると思っています。しかし、日本にもアメフト選手がいること、多くの日本の大学、特に関西の大学



住み慣れた地域で
安心して暮らしていけるように

認知症 コラム

【第6弾】
認知症サポーターについて

こんにちは、認知症地域支援推進員です。「認知症コラム」をご覧いただきありがとうございます。今月号では、「認知症サポーター」について紹介します。

特別な「何か」をする人ではありません

「認知症サポーター（以下、サポーター）」とは、特別な資格を持つ人のことではなく、認知症サポーター養成講座（以下、養成講座）を受講し、認知症に関する知識や接し方などを学んだ住民一人ひとりを指します。現在、全国ですでに1600万人以上のサポーターが誕生しています。

例えば、買い物の場でゆっくり対応することや、偏見や誤解を広めないことなど、日常のちょっとした行動もサポーターの大切な役割です。「自分のため、または身近な誰かのために知っておきたい」と思う方なら、どなたでも対象となります。

認知症の方からの声



「認知症とともに生きる希望宣言（※1）」の中に、「自分の思いや希望を伝えながら、味方になってくれる人たちを、身近なまちで見つけ一緒に歩んでいきます」とあります。その一歩として、耳を傾け一緒に考えられる認知症サポーターの存在が大きな支えにつながります。

（※1）一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループが、2018年11月に発信

養成講座の受講で あなたもサポーターに

与謝野町では、町内の小・中学校に講師役の認知症キャラバン・メイト（※2）を派遣し、啓発活動に力を入れています。また、地区の団体や一般住民の集まり、企業などから「認知症に

ついて学びたい」といった声があれば、講師を派遣して養成講座を開催しています。受講を希望される場合は、地域包括支援センターまでご相談ください。

養成講座を受講すると、サポーターの証である「オレンジリング」が授与されます。私たち一人ひとりの理解と行動は、認知症に限らず、誰もが暮らしやすい社会を支える力になります。ぜひ、あなたもサポーターになってみませんか。

（※2）キャラバンメイトは認知症サポーター養成講座を企画・開催し、講師を務めます。講師開催をきっかけに、住民から相談を受けた関係機関との連携を図ったりすることを通して地域のリーダー役となる役割が期待されています。キャラバン・メイトになるには、自治体または企業・職域団体が実施するキャラバン・メイト養成研修を受講する必要があります



認知症サポーターキャラバン・メイトのมาสコットキャラクター「ロバ隊長」

問 地域包括支援センター（福祉課内） ☎ 43-9021